

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲699番地4
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設のフロアの大きな窓からは、ゆったりと流れる肱川を眺める事ができ、周囲の自然から季節の移ろいを感じることができます。毎日の生活リハビリを行うことにより、皆さん元気に、明るく楽しく生活出来るように、教育機関との交流、ボランティアの方の来所、季節毎の行事など、職員は支援しています。地域のうら盆祭りには、笹飾りを作って、毎年参加しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高台にある事業所から白滝公園が近く、清流肱川の自然豊かな景色を眺められ、四季の移ろいを楽しむことができる。開設10年を迎え、利用者の高齢化や認知症などの重度化が見られるが、職員は事業所としてできることをコツコツと取り組んでいる。事業所では地元商店や婦人会、老人会に協力してもらい地域住民同士が交流できる「白雲茶屋」を開催しており、おやつ作りや茶話会、体操を利用者と一緒に行うなど、交流を深めている。また、住み慣れた事業所で利用者が普通の生活を普通に行えるよう前向きに日々の暮らしを支援している。協力医の往診などによる健康管理や緊急時の迅速な対応などを行っているほか、職員は利用者の気持ちに沿える介護とは何かを考えて真剣に利用者向き合い支援しており、終末期ケアに至るまで安心して生活することができる。職員は一人ひとり目標を作成し、管理者と振り返りをしながらスキルアップとサービスの向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)
氏名 丸本真由美

評価完了日 平成 26 年 6 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社の運営理念を基に、白雲の理念「ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活」を共有して、職員は介護にあたるようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人理念のほか、「ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活」という理念を作成している。理念は入職時に管理者から説明を行うほか、事業所内に掲示しており、職員に浸透し意識づけられている。職員はケアカンファレンス等で利用者のサービス内容を話し合う場合には、理念に立ち戻り検討することが多い。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 「白雲茶屋」を開催して、地域の人に訪問してもらったり、うら盆祭り、地方祭等の交流がある。地元の商店への買い物、美容院の利用、郵便局の利用等している。隣、近所に遊びに来ていただくように声掛けをしている。日常的交流は、まだ不十分。</p> <p>(外部評価) 事業所では地元商店や婦人会、老人会に協力してもらい地域住民同士が交流できる「白雲茶屋」を開催しており、おやつ作りや茶話会、体操を利用者と一緒に行うなど、交流を深めている。長年培ってきた地域住民との信頼関係が築けており、祭りの時には地区の神輿の訪問があるほか、保育所や小学生の神輿の訪問もあり利用者に喜ばれている。また、歌や踊り、演奏、読み聞かせなどのボランティアが気軽に訪問してくれたり、地元小学生の福祉学習を受け入れたりするなど、利用者との交流する機会が多い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「白雲茶屋」の茶話会で利用者さんと地域の方との会話を取り持っている。小学校の福祉学習の訪問への協力。婦人会の方との交流で理解を深めてもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回は実施している。構成委員の方から、助言や意見をもらって、サービス向上につなぐように努力はしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、区長、市担当者、介護相談員、他の事業所の管理者等の幅広い参加を得て開催している。会議では事業所の運営報告のほか、地域の情報交換の場として有意義に意見交換を行いアドバイスを得ている。出された意見はサービスの向上に反映できるよう努めている。会議に参加した家族は、家族会で話し合われた内容を報告している。管理者は大洲市グループホーム連絡会を通して、交流のある他の事業所の運営推進会議にも相互に参加し合っている。また、議題の工夫や多方面から参加者を得られるよう検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の場で、利用者さんの状況を報告している。困難事例があった場合は、市町村の担当者や地域包括の担当者に相談している。ケアプランを提出していて、助言をもらっている。生活保護担当者の方とも連絡している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を行うほか、情報やアドバイスをもらっている。市担当者とは日頃から介護保険の手続きや運営上の相談にのってもらったり、介護計画の指導を受けるなど、相互の協力関係を築いている。大洲市グループホーム連絡会にも積極的に参加し、他の事業所の実情や取組みなどの情報交換をするなど、相互の交流をしている。また、介護相談員の受け入れを行い、利用者や職員の相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵は施錠していない。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを整備し、外部研修などに参加したり話し合いをして、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践している。持続点滴をしている利用者が針を抜かないようにするため、安全面を考え家族等に説明し同意を得て、拘束に繋がる行為を行う場合がある。また、外出したい利用者には職員が見守りながら一緒に散歩をするなど、自由な暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について勉強会を行っている。職員はお互い虐待をしないよう気をつけている。管理者は職員の精神面に注意する様に気を付けている。入浴時など利用者の体に異変がないか、また利用者に怯えるような感じがないか気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 会社で成年後見制度についての研修を実施している。が理解はなかなか難しい。活用している利用者がおられるので支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、契約書、重要事項説明書で丁寧に説明する様にし、不安や疑問を訪ねている。改定時も、文書と口頭による説明で了解をいただいてサインしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時等に意見や要望を聞いている。家族会の場では、家族さんだけで話し合いの場を持っていただいて、意見要望を出してもらっている。利用者さんから聞かれた気持ち等もケアカンファレンス等で取り上げている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者から意見や要望を聞いている。家族とは緊密に電話等で連絡をするほか、3か月毎に介護計画の見直しを説明し同意をもらうために事業所に訪問してもらい、直接意見や要望を聞くようようにしている。また、年1回家族会を開催し、家族のみで自由に意見交換をしてもらい、要望を出してもらいやすいよう工夫している。出された意見は迅速に対応するよう心がけ、介護計画や運営に反映している。日頃から利用者や家族から気軽に意見を言ってもらえるよう、職員は信頼関係づくりにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設内で毎月業務カンファレンスを行い、職員から意見がある場合は提案してもらっている。管理者会議で、話し合いの場を持っている。副部長が施設を訪問して、職員からの意見を聞くようにしている。 (外部評価) 開設時から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員が多い。職員は日頃から管理者に意見や提案を言うことができるほか、気軽に悩み等を相談できる関係が築かれている。職員同士が経験不足を補い、力仕事などの協力をしながら、日々の業務に当たっている。本調査の自己評価は職員間で話し合い作成しており、業務の振り返りに繋がっている。職員から出された意見は迅速に対応するように努めているが、その場で対応できないことは法人のホーム長会議に管理者が伝え、産休や育休等の職場復帰、給与や処遇等の改善に繋がるなど、職員の働きやすい就業環境へと反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力や実績により、昇格する事も出来る。産休や育児休暇等も整備されていて、再度働くことが出来る。給与の見直しや、労働時間の見直し等、会社も努力はしてくれているが、職員不足は慢性的である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 働きながら初任者研修を受けることができる。県のGH協会の研修、市の研修に参加し、ケアの向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のGH連絡会、市の連絡会に参加している。市の他GHの見学会に職員が参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャーさんと連絡を取り、本人の気持ち等伺っている。事前調査に伺い、本人に面接を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャーさんと連絡を取り、家族さんの意向を伺っている。事前調査に伺い、本人と家族と一緒に面接をしている。又、できるだけ家族には、事前に施設に見学に来ていただくようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず、GHへの入所が適切であるかどうか、担当ケアマネジャーさんと連絡をとって、事前調査で見極めるようにしている。GHは他のサービスを利用するのは難しい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 認知症が進行している方が多くなり、精神介護、身体介護が増える中で、暮らしを共にする者同士の関係が難しくなってきた。が、人生の先輩としての気持ちを忘れない様になりたい。出来る事はしていただいて、ありがたい言葉を必ず言っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に日々の暮らしの報告をして、要望を聞いてコミュニケーションを取っている。毎月、担当者が1か月の生活状態、健康状態を手紙で知らせている。ケアプラン更新時に説明して、要望等話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や親せきの方以外の方が面会に来られることは少ない。地元の方が入所していた時には、地域の友人が面会に来られた。馴染みの場所には外出の時に道を通ったり訪れたりしている。 (外部評価) 利用開始前に、利用者の生活歴や馴染みなどの関係を聞き把握して支援しており、事業所でも可能な限り継続できるようにしている。家族との関係を大切に考え、地域の祭りに家族を招待するなど、遠方の家族にも事業所を訪問しやすいよう配慮をしている。また、利用者の自宅近くにドライブに行ったり、家族の協力を得て、お盆や正月には自宅に戻る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアの席の配置には、気の合う同士を考え、トラブルの起こらない様に気をつけている。お手伝いも、それぞれに分担して、協力して出来るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された時は、お見舞いに行っている。退院後についても、相談がある時には対処している。亡くなられた時は、弔電を打って、葬儀に行かせてもらっている。身近にいない家族の方に代わって、白雲で出来る事は行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のケアカンファレンスで、職員の気づいたことや本人からの話、家族さんの話などから把握に努めている。困難な場合は、本人の様子や、顔の表情などから、検討している。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の思いや希望を聞き、「できるだけ多く入浴をしたい」という希望にも応えており、職員はできる限り希望に応えた支援をしている。思いの伝達が困難な利用者には家族等からも情報を得たり、表情からくみ取り検討をして、利用者の気持ちに沿えるサービスが提供できるよう努めている。新たに知り得た情報は、申し送りノートや介護記録に記入し、ケアカンファレンス等を利用して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査やアセスメント等から、職員全員が理解して共有する様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日勤務者の申し送りにより把握している。毎日の介護の中で、だんだん出来なくなってきたことに気づいた時、話し合いをして、援助の方法を変えている。体調不良の人は、休んでもらったり、受診している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎にモニタリングしている。状態に変化がある場合は介護計画の見直しをしている。本人と家族の要望を聞いているが、家族で積極的に計画の立案に参加する人は少ない。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画作成担当者が作成している。2回目以降の見直しは、利用者毎の担当職員が利用者や家族等の意向を反映して介護計画の原案を作成し、カンファレンスで話し合い作成している。3か月に1回モニタリングを行い見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。介護計画は定期的に市担当者の指導を受け、客観的な意見をもらい質の向上に努めている。	介護記録等の記録方法の改善を検討しているため、職員全員で話し合い、介護計画に沿って職員が理解して分かりやすい記録ができることを期待したい。また、記録が根拠のあるモニタリングに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録して、目を通して、休みの時の状態も把握している。いつもと違うことがあれば、申し送りをして共有するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 療養マッサージの利用。訪問看護の利用。経済的変化により生活保護の支給を受けるようになった方への支援。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 介護相談員さんが訪問に来られる。ボランティア、小学生の訪問。お祭りの神輿が上がってきてくれる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に話し合い、家族の希望する納得いくかかりつけ医に 受診している。遠方の受診には家族が協力してくれている。 耳鼻科や眼科の受診もしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができる。月1回往診があり健康管理などし てもらえることから、協力医をかかりつけ医にする利用者も 多い。協力医とは連携が密に取れており、管理者は看護師で 緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安 心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者さんの体調の気づきは、医療連携看護師に申し送り をしている。看護師は、在宅療養支援診療所の看護師、または 医師に上申して、受診や看護を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 在宅療養支援診療所の医師の往診がある。入院時は情報提供 書を書いている。入院中は、様子を伺い、病院の看護師と連 絡して、早目に施設に帰れるように準備している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の指針について入居時に説明している。重度 化した時、看取りについて、家族、主治医、事業所で話し 合い、方針を決めている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に事業 所として対応できる内容を利用者や家族に丁寧に説明し、ア ンケートなどで意向を確認している。事業所では看取り支援 を多く経験している。利用者の状態の変化に応じて、家族や 医師を交えて話し合い、利用者や家族等の意向を尊重した支 援ができるよう努めている。終末期には看護師資格のある管 理者の指導のもと、職員は介護職としてできる支援に組み 入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の指導のもと、救命講習を受けている。が期間があいているので講習を受けることが必要。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、年2回は地域の人にも参加していただき、火災避難訓練を実施。地域の防災訓練には管理者が参加。地元消防団にお願いしている。 (外部評価) 災害対応マニュアルを整備し、年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施しており、専門的なアドバイスをもらっている。寝具を使用して2階から避難するなど、利用者が安全に避難できるよう具体的な訓練を実施するよう努めている。地域の自主防災訓練に参加したり、地域住民に事業所での行事等で事業所内を知ってもらったりするなど、災害時の協力体制を築いている。	事業所の近くには河川や急な坂道があり、土砂崩れ等も考えられるため、今後は様々な災害を想定した訓練や対策を行い、継続して地域と協力しながら利用者が安心安全に避難できる取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの認知症の進行にあった介護をしている。オムツ介助時にはカーテンを閉めている。さりげなくトイレ誘導をする。 (外部評価) 法人として接遇研修を実施しており、慣れからくる口調や言葉づかいなど気になることは職員間で注意し合いながら気をつけて支援している。居室内にカーテンを設置し、着替え時など利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した支援をしている。入浴介助は利用者の希望に応じて同性介助にも配慮している。また、トイレ誘導時の声かけなどは、他の利用者にはわからないように配慮し、大きい声で呼ばないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ本人に声掛けして希望を聞いているが、認知症の進行により、自己決定出来ない、考えられない利用者が増えている。どちらかを選んでもらえる場面を作ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合った介護をしているが、その日をどう過ごしたいか言える利用者は少なくなっている。いつもと変わらず、落ち着いた生活をしたい利用者の方が増えてきたと思う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来て頂いている。外出する際には、お出かけ用の更衣の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べやすいような大きさに切って、一人ひとりの盛り付けを行っている。もやしの根とりや食器拭きのお手伝いをしてもらっている。 (外部評価) 法人内にある数か所の事業所が持ち回りで献立を作成し、食材は一括して注文をしている。食事には事業所の菜園で収穫したナスやトマトなどの旬の野菜を取り入れ、職員がアレンジして調理をしている。誕生日は利用者の希望のメニューを取り入れたり、外食したりすることもある。職員は同じ食卓を囲み、会話をしながら和やかに食事を楽しんでいる。利用者の状態に応じた食材の形態や座席に配慮している。利用者は食事の準備等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量、水分量が分かるように記録している。食事量の減少している人には、メイバランスなどの栄養補助食品を飲んでもらっている。脱水にならない様に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後誘導して、口腔ケアを行っている。本人が出来るところはやってもらうように、声掛け、見守りを徹底している。ポリドントもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレへの声掛けをこまめに行うことで、排泄の失敗を減らしている。それぞれの排泄に見合った、尿取り、リハビリパンツを使用している。	
			(外部評価) 排泄の時間や量のほか、食事や水分の摂取量などをチェックシートに詳細に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者からの排泄の訴えや職員が表情や様子を見て、さりげない声かけで誘導しトイレで気持ち良い排泄ができるよう支援している。また、利用者一人ひとりの残存機能を活かし、利用者に適したポータブルトイレを使用するなど、利用者の自立に向けた排泄支援をするよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体操をして、運動不足の改善、腸の動きの活性化を促進している。水分を多く摂取する様に気を付けている。やむを得ない場合は、医師の指示により下剤の処方をしてもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 全員の利用者が介助が必要であるので、状態や体調に合わせて入浴している。入る時間、お湯の温度等、本人の好みで対応している。	
			(外部評価) ユニット毎にある個別浴槽を使用して、週2回以上利用者の希望に応じて入浴をすることができる。職員の体制等を考慮し、安全を確保した上で入浴回数や入浴日を決め、同性介助の対応などを行っている。入浴が苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫して気持ち良く入浴できるよう努めている。また、利用者の状態に応じて、シャワー浴や清拭を行い、利用者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに応じて、睡眠の援助をしている。体調のすぐれない時は、自室で休んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会等している。薬の変更時は申し送りをして、服薬しやすい状態で、服用している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭き、洗濯物、タオルたたみ、新聞折りなど役割をもっている。季節の行事を取り入れたり、外出の計画を立てている。ボランティアの方の訪問。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 認知症が進行し、希望に沿っての外出は少なくなった。職員が、季節に応じての外出を計画している。家族との外出機会は少ない。	
			(外部評価) 利用者の高齢化や認知症などの重度化が見られ、外出をすることが難しくなってきたが、外出先で混乱したりしないよう気をつけている。利用者の状態に合わせて、庭先に出て外気に触れ気分転換を図れるよう支援している。事業所前には急な坂道があり日常的に散歩することも難しいが、少しでも外出ができるよう努めている。家族やボランティアの協力を得て遠方へ外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金に対する興味も薄れ、所持も出来ない人も多い。買物に出かけた時は、財布を持ってもらい、自分で支払うように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書く人がいなくなっている。電話の取り次ぎはしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 外の光が射してくれば、カーテンを閉めている。部屋の明るさ、温度等は利用者さんに合わせている。職員の家から、季節の花を持ってきて飾っている。 (外部評価) 高台にある事業所のリビングから清流肱川や山の自然豊かな景色などを眺めることができ、四季の移ろいを楽しむことができる。敷地内の庭には芝生が敷かれ、中庭に出て行事や景色を楽しみながら外気浴を楽しむことができる。利用者が落ち着ける座席やくつろげる場所に座る場所を配慮し、混乱を防ぎながら居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う者同士が近くで過ごせるように席等考えている。耳の遠い利用者さんは、職員が間に入って会話をするようにしている。2Fにソファを置いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族さんが自由に持ってきたり、持って帰ったりしている。テレビや、鏡、家族の写真を飾ったりしている。破ったり、持ってまわったりするために、何も置くことが出来ない人もいる。 (外部評価) 居室はベッドやカーテン、整理ダンス、洋服ダンスが備え付けられている。管理者は、居室に利用者の思い入れのあるものを持ち込むよう声かけをしており、生活用品などを自由に配置して居心地良く過ごすことができる。立位での移乗が困難な利用者には、床や寝具を工夫して移動しやすいよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所がわからない人には、便所と表示している。台所で見守りしながら、洗濯物干し、たたみ等してもらっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲699番地4
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のフロアの大きな窓からは、ゆったりと流れる肱川を眺める事が出来、周囲の自然から季節の移ろいを感じることが出来ます。毎日の生活リハビリを行うことにより、皆さん元気に、明るく、楽しく生活できるように、教育機関との交流、ボランティアの方の来所、季節ごとの行事など、職員は支援しています。地域のうら盆祭りには、笹飾りを作って、毎年参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある事業所から白滝公園が近く、清流肱川の自然豊かな景色を眺められ、四季の移ろいを楽しむことができる。開設10年を迎え、利用者の高齢化や認知症などの重度化が見られるが、職員は事業所としてできることをコツコツと取り組んでいる。事業所では地元商店や婦人会、老人会に協力してもらい地域住民同士が交流できる「白雲茶屋」を開催しており、おやつ作りや茶話会、体操を利用者と一緒に行うなど、交流を深めている。また、住み慣れた事業所で利用者が普通の生活を普通に行えるよう前向きに日々の暮らしを支援している。協力医の往診などによる健康管理や緊急時の迅速な対応などを行っているほか、職員は利用者の気持ちに沿える介護とは何かを考えて真剣に利用者向き合い支援しており、終末期ケアに至るまで安心して生活することができる。職員は一人ひとり目標を作成し、管理者と振り返りをしながらスキルアップとサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏名 中家 由美子(丸本真由美)

評価完了日

平成 26 年 6 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念に基づき、「ゆっくり、ゆったり笑顔ある生活」を目指してその人らしく生活できるよう介護を行っている。</p> <p>(外部評価) 法人理念のほか、「ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活」という理念を作成している。理念は入職時に管理者から説明を行うほか、事業所内に掲示しており、職員に浸透し意識づけられている。職員はケアカンファレンス等で利用者のサービス内容を話し合う場合には、理念に立ち戻り検討することが多い。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年一回行事として、地域の方々と交流をもち、地域のお祭りへの参加なので、交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 事業所では地元商店や婦人会、老人会に協力してもらい地域住民同士が交流できる「白雲茶屋」を開催しており、おやつ作りや茶話会、体操を利用者と一緒に行うなど、交流を深めている。長年培ってきた地域住民との信頼関係が築けており、祭りの時には地区の神輿の訪問があるほか、保育所や小学生の神輿の訪問もあり利用者に喜ばれている。また、歌や踊り、演奏、読み聞かせなどのボランティアが気軽に訪問してくれたり、地元小学生の福祉学習を受け入れたりするなど、利用者との交流する機会が多い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 年1回地域の人を招き、茶話会を開いている。体操など一緒に行い身体面に役立つことを実践している。茶話会にて、認知症への相談や不安なことを聞くことにより、認知症の理解を深めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二か月に一回開催しており、意見交換や地域の取り組み等を聞き、情報を共有している。議事録の提示をし、面会者、スタッフが目を通して。業務カンファレンスにて、報告し、スタッフの意見としても話合っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、区長、市担当者、介護相談員、他の事業所の管理者等の幅広い参加を得て開催している。会議では事業所の運営報告のほか、地域の情報交換の場として有意義に意見交換を行いアドバイスももらっている。出された意見はサービスの向上に反映できるよう努めている。会議に参加した家族は、家族会で話し合われた内容を報告している。管理者は大洲市グループホーム連絡会を通して、交流のある他の事業所の運営推進会議にも相互に参加し合っている。また、議題の工夫や多方面から参加者を得られるよう検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ケアプランを提出し、助言をいただいている。市のサービス担当者会議に参加をし、連絡を密にしている。生活保護を受けている利用者の情報交換も行っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を行うほか、情報やアドバイスをもらっている。市担当者とは日頃から介護保険の手続きや運営上の相談にのってもらったり、介護計画の指導を受けるなど、相互の協力関係を築いている。大洲市グループホーム連絡会にも積極的に参加し、他の事業所の実情や取組みなどの情報交換をするなど、相互の交流をしている。また、介護相談員の受け入れを行い、利用者や職員の相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は施錠しておらず、自由に出られるようにしている。身体拘束の廃止の為にマニュアルを作成し、すべてのスタッフが目を通せるようにしている。研修会へ参加し、勉強会で報告、話し合いをしている。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを整備し、外部研修などに参加したり話し合いをして、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践している。持続点滴をしている利用者が針を抜かないようにするため、安全面を考え家族等に説明し同意を得て、拘束に繋がる行為を行う場合がある。また、外出したい利用者には職員が見守りながら一緒に散歩をするなど、自由な暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 市の研修会に積極的に参加している。スタッフ間でも言葉の暴力について、話し合い、個々が気を付けて利用者に接している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市や県の研修会への参加、事業所内の勉強会を通し、制度を利用している方への取次ぎを支援してる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学の際、重要事項説明書に目を通していただき、家族等の理解に努め、説明の時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や、苦情の申し出窓口を設けている。意見を出しやすい様、意見箱の設置、メモなどを残し、家族の要望がスタッフ全員に伝わるようにしている。運営推進会議での意見交換。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者から意見や要望を聞いている。家族とは緊密に電話等で連絡をするほか、3か月毎に介護計画の見直しを説明し同意をもらうために事業所に訪問してもらい、直接意見や要望を聞くようようにしている。また、年1回家族会を開催し、家族のみで自由に意見交換をしてもらい、要望を出してもらいやすいよう工夫している。出された意見は迅速に対応するよう心がけ、介護計画や運営に反映している。日頃から利用者や家族から気軽に意見を言ってもらえるよう、職員は信頼関係づくりにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の業務カンファレンスにてスタッフの意見を聞き、運営に反映している。管理者会議や副部長訪問時にも意見を取り上げている。 (外部評価) 開設時から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員が多い。職員は日頃から管理者に意見や提案を言うことができるほか、気軽に悩み等を相談できる関係が築かれている。職員同士が経験不足を補い、力仕事などの協力をしながら、日々の業務に当たっている。本調査の自己評価は職員間で話し合い作成しており、業務の振り返りに繋がっている。職員から出された意見は迅速に対応するように努めているが、その場で対応できないことは法人のホーム長会議に管理者が伝え、産休や育休等の職場復帰、給与や処遇等の改善に繋がるなど、職員の働きやすい就業環境へと反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) スタッフの向上心や実績を踏まえて、研修会への参加、昇進の機会を設けている。時間外手当の充実。産休や育休が取れる環境が整えられている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎年、順番にスタッフが研修に参加出来るようにしている。参加スタッフは勉強会で発表し、ほかのスタッフも理解出来るよう資料に目を通してしている。介護実務者研修を受講出来る様勤務時間調整の支援をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市のサービス担当者会議に出席し、他のGHと交流の機会を持っている。他のGH運営推進会議への参加も行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時には事前調査に伺い家族や本人の不安が少しでも軽減できるように話を聞く体制を取っている。入所時には施設内の見学等行い、生活の雰囲気を感じられる様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時の不安や、サービスでの不安がない様、納得されるまで説明を行う取り組みをしている。事前調査には同席していただき、家族様の要望、に応えられる様努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャーを通し、本人、家族の希望、要望などを聞く事で適切なサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で出来ることを見出し、スタッフとともに作業したり、日々の生活を通して、色々な感情を分かち合いながら、お互い支えあっているような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族面会時には、コミュニケーションを大切にし、本人が施設生活が継続出来る様、協力し、かかわっている。生活状況は、毎月、手紙や電話などで伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人などの面会時には受け入れ体制を取り、関係がとぎれない様、支援している。故郷への外出行事などを行っている。 (外部評価) 利用開始前に、利用者の生活歴や馴染みなどの関係を聞き把握して支援しており、事業所でも可能な限り継続できるようにしている。家族との関係を大切に考え、地元の祭りに家族を招待するなど、遠方の家族にも事業所を訪問しやすいよう配慮をしている。また、利用者の自宅近くにドライブに行ったり、家族の協力を得て、お盆や正月には自宅に戻る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がコミュニケーションが取りづらい時には、スタッフが間に入り、声かけし状態が保てる様支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても、声かけ等行っている。今まで通りのお付き合いをさせてもらっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランを立てる時には、本人の意向も重視し、本人に取って良い状態を作れるように努めている。意志疎通が困難な利用者については、家族相談を行い、本人に良い状態を検討している。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の思いや希望を聞き、「できるだけ多く入浴をしたい」という希望にも応えており、職員はできる限り希望に応えた支援をしている。思いの伝達が困難な利用者には家族等からも情報を得たり、表情からくみ取り検討をして、利用者の気持ちに沿えるサービスが提供できるよう努めている。新たに知り得た情報は、申し送りノートや介護記録に記入し、ケアカンファレンス等を利用して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報提供書に目を通し、状況の把握とその人に合った介護ができるよう、努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録、経過観察記録を付けて、本人の状態を把握している。介護業務日誌の記帳により、次の勤務スタッフへの申し送りも行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月ごとにモニタリングと介護計画の見直しをチームで集まってケアカンファレンス時に話し合い、見直ししている。本人にとってよりよい生活が送れるように介護計画を作成している。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画作成担当者が作成している。2回目以降の見直しは、利用者毎の担当職員が利用者や家族等の意向を反映して介護計画の原案を作成し、カンファレンスで話し合い作成している。3か月に1回モニタリングを行い見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。介護計画は定期的に市担当者の指導を受け、客観的な意見をもらい質の向上に努めている。	介護記録等の記録方法の改善を検討しているため、職員全員で話し合い、介護計画に沿って職員が理解して分かりやすい記録ができることを期待したい。また、記録が根拠のあるモニタリングに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録、経過観察記録を用意し、日々の記録の記入し、スタッフ間でも情報共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その都度、利用者様、家族様のニーズに対応していけるようチームで話し合っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎年、地域の人をお招きし、茶話会を開いて、利用者様とスタッフ間でのコミュニケーションを取っている。又、地元小学校や、保育所の子供たちとの交流もあり、楽しい時間を設けさせてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医による、月2回の往診がある。本人、家族希望 の病院受診も必要に応じて行っている。又、希望病院の受診 の際は家族協力も得られている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができる。月1回往診があり健康管理などし てもらえることから、協力医をかかりつけ医にする利用者も 多い。協力医とは連携が密に取れており、管理者は看護師で 緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安 心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態の観察、記録を行っている。異常がみられる 場合は、担当看護師へ連絡、状態報告、必要時には指示をい ただき早めの受診を行っている。必要時は訪問看護も行って いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供書の作成提出により、本人の状態把握に努めてい る。入院中の状態を把握するために、経過の確認を行ってい る。必要時には、入院中の洗濯なども行っており、入退院の 際には、送迎も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて、家族の希望をアンケートし、終末 期のケアの在り方を把握に努めている。緊急時の対応の仕方 について、家族と話し合っている。それに伴い、ケアの仕方 について理解していただいている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に事業 所として対応できる内容を利用者や家族に丁寧に説明し、ア ンケートなどで意向を確認している。事業所では看取り支援 を多く経験している。利用者の状態の変化に応じて、家族や 医師を交えて話し合い、利用者や家族等の意向を尊重した支 援ができるよう努めている。終末期には看護師資格のある管 理者の指導のもと、職員は介護職としてできる支援に取り組 んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署の指導による、救命救急講習を受けている。急変時や、事故発生時には対応マニュアルを作成し実践している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災や地震時で昼、夜の想定をし、防災訓練を実施している。地域の方々にも協力体制を取っている。 (外部評価) 災害対応マニュアルを整備し、年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施しており、専門的なアドバイスをもらっている。寝具を使用して2階から避難するなど、利用者が安全に避難できるよう具体的な訓練を実施するよう努めている。地域の自主防災訓練に参加したり、地域住民に事業所での行事等で事業所内を知ってもらったりするなど、災害時の協力体制を築いている。	事業所の近くには河川や急な坂道があり、土砂崩れ等も考えられるため、今後は様々な災害を想定した訓練や対策を行い、継続して地域と協力しながら利用者が安心安全に避難できる取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の性格や、生活環境など、それぞれの人格を理解し、思いやりのある言葉かけを心かけている。 (外部評価) 法人として接遇研修を実施しており、慣れからくる口調や言葉づかいなど気になることは職員間で注意し合いながら気をつけて支援している。居室内にカーテンを設置し、着替え時など利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した支援をしている。入浴介助は利用者の希望に応じて同性介助にも配慮している。また、トイレ誘導時の声かけなどは、他の利用者にはわからないように配慮し、大きい声で呼ばないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴など本人の希望に沿って行うようにしていたり、買い物際には本人希望の物をスタッフと一緒に考え購入している。自己決定が出来ない方には介護側の判断で行う場合もあるが、家族の理解の元、実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様それぞれのペースやリズムを大切に無理のない介護を進めている。穏やかな声かけ、見守りをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ホームへ出張美容師さんを予約し、カットをお願いしている。その際、本人の希望を聞き入れ、その人らしいおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様のできることを見つけ、料理の下ごしらえなどをお手伝いしてもらっている。季節の物などは喜ばれ、楽しみの一つになっている。 (外部評価) 法人内にある数か所の事業所が持ち回りで献立を作成し、食材は一括して注文をしている。食事には事業所の菜園で収穫したナスやトマトなどの旬の野菜を取り入れ、職員がアレンジして調理をしている。誕生日は利用者の希望のメニューを取り入れたり、外食したりすることもある。職員は同じ食卓を囲み、会話をしながら和やかに食事を楽しんでいる。利用者の状態に応じた食材の形態や座席に配慮している。利用者は食事の準備等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事、水分摂取量がわかるように記録している。毎月のWT測定、BMIの変化に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯みがき、口腔ケアの介助、本人の能力に応じてケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄のタイミングを把握し、適切なトイレ誘導を行っている。リハビリパンツの利用や、個々に合った排泄用品を使用している。尿意のない方にも対応を行っている。	
			(外部評価) 排泄の時間や量のほか、食事や水分の摂取量などをチェックシートに詳細に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者からの排泄の訴えや職員が表情や様子を見て、さりげない声かけで誘導しトイレで気持ち良い排泄ができるよう支援している。また、利用者一人ひとりの残存機能を活かし、利用者に適したポータブルトイレを使用するなど、利用者の自立に向けた排泄支援をするよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状況を把握し、食後や移動時にトイレ誘導を行っている。水分不足にならないように一日の摂取量の記録も行っている。好みの水分摂取を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた温度設定や、入浴時間帯の希望を聞き、本人の希望に合わせて入浴していただいている。希望時には入浴も行っている。	
			(外部評価) ユニット毎にある個別浴槽を使用して、週2回以上利用者の希望に応じて入浴をすることができる。職員の体制等を考慮し、安全を確保した上で入浴回数や入浴日を決め、同性介助の対応などを行っている。入浴が苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫して気持ち良く入浴できるよう努めている。また、利用者の状態に応じて、シャワー浴や清拭を行い、利用者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の過ごし方を考え、夜間気持ち良く安眠できるように支援しています。空調の管理等気を付けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 朝、昼、夜、眠前と薬を分けて個々にわかるように管理している。服用前は名前の確認、一人、ひとり手渡しや口に運ぶことで誤薬防止に努めている。勉強会を開き、薬の効能、副作用等、把握に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できることのお手伝いで、役割の喜びを見いだせたり、食事や、行事などを通して楽しみな時間を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1回から2回程度の外出の予定を立て、本人の意向に沿った外出先を選んでいる。その他の外出では家族様の協力により、実現されている。 (外部評価) 利用者の高齢化や認知症などの重度化が見られ、外出をすることが難しくなってきたが、外出先で混乱したりしないよう気をつけている。利用者の状態に合わせて、庭先に出て外気に触れ気分転換を図れるよう支援している。事業所前には急な坂道があり日常的に散歩することも難しいが、少しでも外出ができるよう努めている。家族やボランティアの協力を得て遠方へ外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解出来る方には、残高の確認等行いながら、買い物等相談し、支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が望むときには、電話の取次ぎを行い不安を取り除いている。年賀状を書くことも支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 施設内には畳スペースもあり、横になって過ごす方もおられる。日付や時間が分かるようにカレンダー、時計の設置、季節に沿って掲示板の工夫を凝らしている。</p> <p>(外部評価) 高台にある事業所のリビングから清流肱川や山の自然豊かな景色などを眺めることができ、四季の移ろいを楽しむことができる。敷地内の庭には芝生が敷かれ、中庭に出て行事や景色を楽しみながら外気浴を楽しむことができる。利用者が落ち着ける座席やくつろげる場所に座る場所を配慮し、混乱を防ぎながら居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 入浴時の一人時間、自室での過ごし方、で居場所を確保している。共用スペースでは、座席の工夫でお互いを思いやったりする言葉が聞かれるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みのものなど、自由に持って来てもらっている。飾り花、ラックなど、必要に応じて自室に設置してもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやカーテン、整理ダンス、洋服ダンスが備え付けられている。管理者は、居室に利用者の思い入れのあるものを持ち込むよう声かけをしており、生活用品などを自由に配置して居心地良く過ごすことができる。立位での移乗が困難な利用者には、床や寝具を工夫して移動しやすいよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内には、手すりの設置で転倒予防をし安全に歩行が出来るようにしている。椅子や靴なども、個々に合ったものを使用している。</p>	